

Title	研究開発活動の行動科学分析
Author(s)	小山, 和伸
Citation	年次学術大会講演要旨集, 14: 111-113
Issue Date	1999-11-01
Type	Conference Paper
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/5746
Rights	本著作物は研究・技術計画学会の許可のもとに掲載するものです。This material is posted here with permission of the Japan Society for Science Policy and Research Management.
Description	一般論文

○小山和伸（神奈川大経済）

本研究は、科学技術庁振興調査費による「R&Dマネジメント総合研究」（平成3年度～7年度）の一環として実施された「R&Dマネジメント・ツールの試行評価」において行われた調査に基づいている。

本研究は、企業内研究開発プロセスにおける活動の内容を分類し、活動内容の変化と成果との関係明らかにすることを目的とし、また企業内研究開発の調査に、行動科学的アプローチを提唱しようとするものである。本研究では、一定のテーマにかかわる特定の研究者に対する、継続的かつ体系的な行動研究により、研究テーマの性質と、そこに見られる研究プロセスの特徴を明らかにし、研究開発パターンを分類した。これによって、効率的な研究開発の進め方、研究テーマの性質に即して示唆され得るようになるかも知れない。事例の数々余りにも少なく、一般化への距離は未だ遠く隔ってはいるが、適切な演繹によって、正しい因果の連鎖が導かれれば、研究開発活動を効率化するためのマネジメントは、意外にも早く実現されるのかも知れない。以下では、本研究の要点を整理しておくことにしよう。

1. 本研究の目的

企業内研究開発の行動科学分析

2. 研究方法

企業内研究者の行動記録の収集

- (1) 投入された実質的な研究開発時間の算出（行動記録調査票の集計）
- (2) 達成された研究開発成果の測定、（例 マイルストーン方式による表示）

3. 分析結果

「実験先行型」 — 基礎的分野の研究テーマ、R&Dの前半に実験データ収集を重視、後半での推論、意味づけ。

「実験後発型」 — 未経験で新規性の高い開発分野のテーマ、R&D前半で実験の方針決定のための文献探索や会議に重点、後半で実験による成果向上。

「波動型」 — 基礎から応用・開発を行き来するようなテーマや、他部門との情報交換が不可欠なテーマ、R&D全体を通じて実験と実験以外の行動が交互にウエイトを移動する。

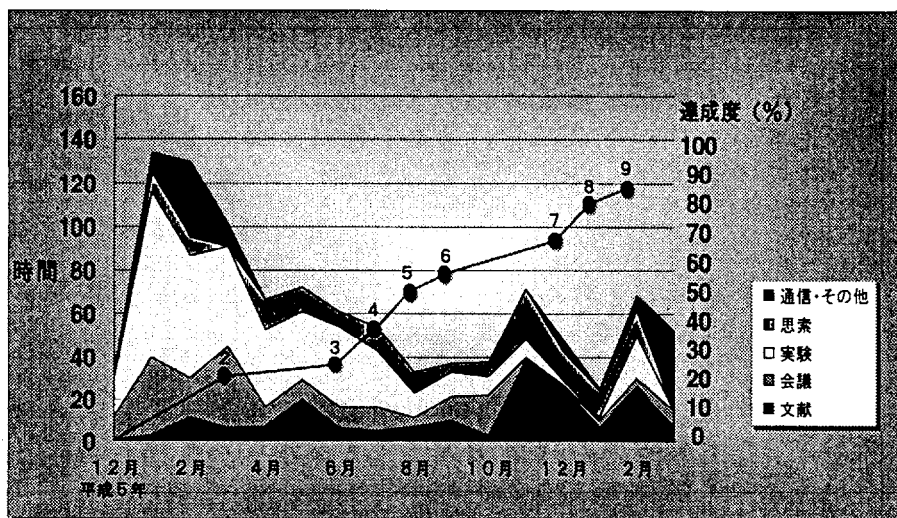
「モノトーン型」 — 過去の経験の延長線上にあるような研究テーマ、開発分野に属するR&Dテーマ。

【表-1】研究者の行動記録調査票

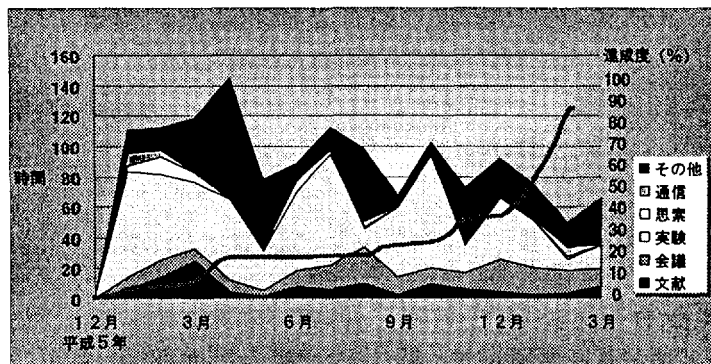
平成 年 月 日()

氏名 _____

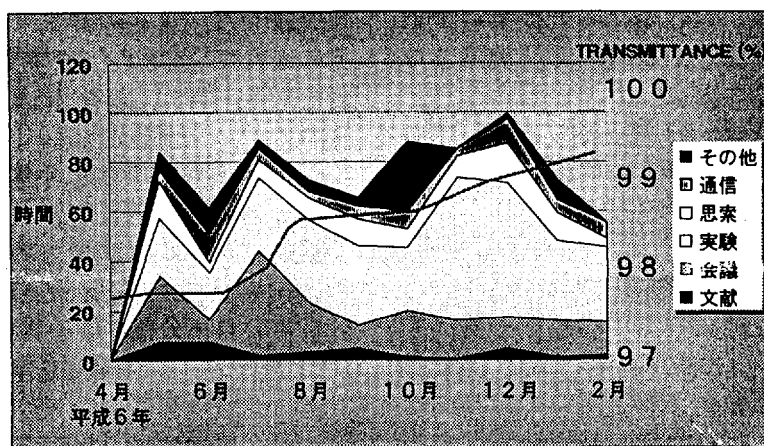
		8時	12時	13時	17時	24時
文献	学術論文					
	評論文					
	雑文					
	その他					
会議	研究討論					
	非公式研究会					
	事務処理会議					
	その他					
実験	実施・観察					
	準備					
	整理					
	その他					
思索	新アイデア創出					
	既存アイデア検討					
	その他					
通信	文書による研究相談					
	電話による研究相談					
	その他					
その他	製造現場の問題処理					
その他						



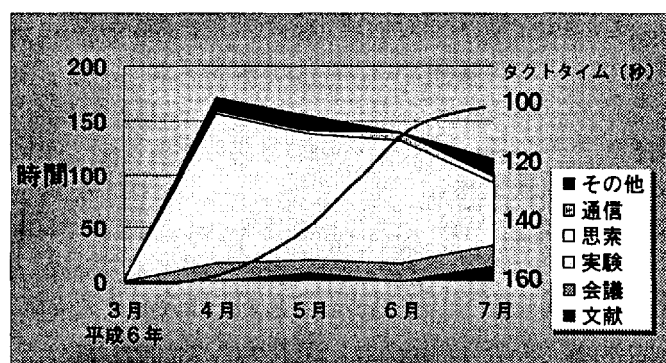
【図-1】 T氏のR&D活動と成果の向上



【図- 2】O氏のR&D活動と成果の向上



【図- 3】M氏のR&活動と成果の向上



【図- 4】U氏のR&D活動と成果の向上